

自動式低圧樹脂注入工法

マウスインジェクタ[®]

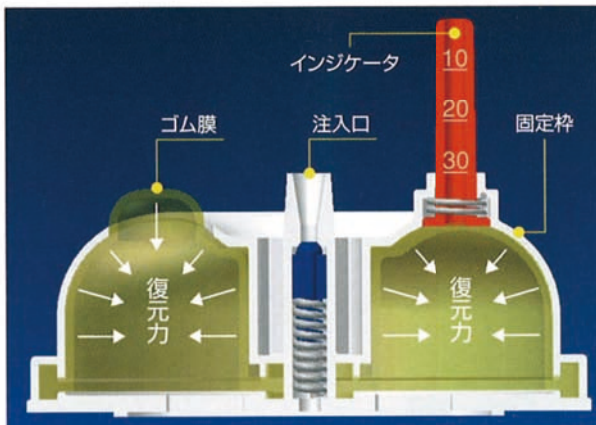
「マウスインジェクタ」はゴム膜と固定枠から成り、そのゴム膜の復元力を利用して、低圧で自動的に注入する「自動式低圧樹脂注入工法」用の注入器具です。

「マウスインジェクタ」をひび割れの上に20～30cm間隔に貼り付け、注入口から樹脂をグリスポンプ等を用いて充填します。

充填された樹脂はゴム膜の復元力と毛細管現象により、ひび割れの隅々まで完全に注入されます。

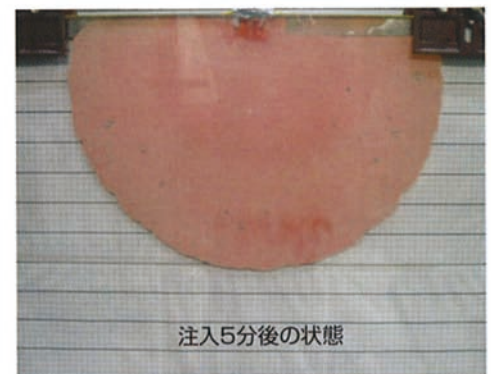
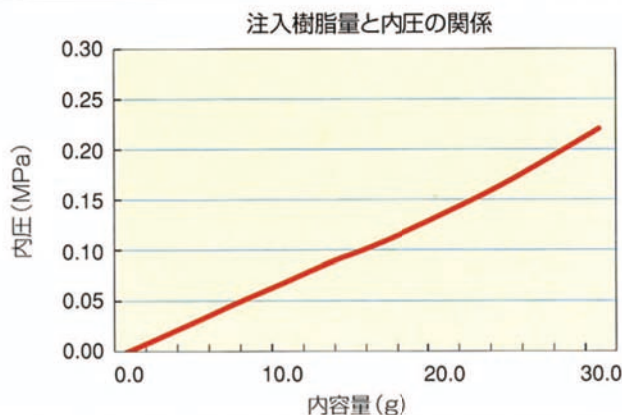
マウスインジェクタの特徴

- 注入口が器具の中央にあるためグリスポンプの保持が安定します。
- 外装がプラスチックでカバーされているため過充填によるゴム膜破裂に起因する樹脂の飛散が防止できます。
- インジェクタがついているので注入量の確認ができます。
- 保持治具がついているため保護手袋をしていても保持しやすくなっています。
- 製品の高さが低いので作業時に邪魔になりません。



自動式低圧樹脂注入工法の特徴

- ① ヒビ割れ部分の躯体構造を補強することができます。
- ① 特殊構造により、微細ひび割れまで、完全に注入できます。
- ① 器の構造がシンプルで、取り扱いが簡単です。
- ① 内圧 (0.2MPa) が高く、微細なひび割れの隅々まで完全に注入されます。
- ① 粘度の異なる注入材 (樹脂、微粒子無機系) を連続して追加注入できます。
- ① ひび割れのシールが簡単で、注入材が漏れません。
- ① 施工効率が高く、経済性に富んだ工法です。



施工手順



【ひび割れの調査】

ひび割れの位置、幅、深さを調査する。



【注入口の位置決定】

定規を使って、注入口の位置を決定する。
200mm～300mm間隔。



【マウスインジェクタを接着】

エポキシパテを混練し、マウスインジェクタの外周部に盛り上げる様に練りつける。コンクリート面に貼り付け圧着させる。パテが注入口のひび割れをふさがらない様に作業する。



【シール】

ひび割れの表面と、マウスインジェクタの周りを確実に目止めシールする。



【樹脂の計量】

樹脂は、可使時間を考慮し、可使時間内に使い切る量を量り、十分に混合する。



【注入】

混合した樹脂を注入器に充填し、マウスインジェクタに注入する。赤い計量バーが飛び出し、ガイド窓迄膨らんだら、一時注入を中止する。



【ゲージ計量】

30:樹脂が満タン、再注入は保留する。
20:ゲージが更に下がる様なら、再注入する。
10:樹脂が空、樹脂を再注入する。
養生する。




【仕上げ】

樹脂が硬化した後、マウスインジェクタを皮スキ等を用いて、除去する。

荷姿：300個/箱 (60個/袋×5袋)
専用ノズル 3本込み

注入用樹脂及び機材等のご要望がございましたらご相談ください。

 **日東化工株式会社** ISO 9001, ISO 14001 認証取得

本社・工場 〒253-0111 神奈川県高座郡寒川町一之宮6-1-3
TEL.0467-74-3111(代) FAX.0467-74-4755
大阪支店 〒541-0044 大阪市中央区伏見町4-1-1(明治安田生命大阪御堂筋ビル)
TEL.06-6204-8538(代) FAX.06-6204-8539
名古屋営業所 〒450-0002 名古屋市中村区名駅3-28-12(大名古屋ビル)
TEL.052-561-8461(代) FAX.052-561-8462

■取扱店

URL: <http://www.nitto-kk.co.jp/>

2009.7.1000.RIX